

| 九州歴史資料館   |   | 行事・事業予定 |
|---|---|---------|
| 展 示   | 常 設 展 示：「歴史(とき)の宝石箱」(第1・3展示室)   |         |
|   | 企 画 展 示：4月24日(火)～7月22日(日) 『きゅうおとタイムトラベル-大昔のくらしと国づくり-』(第2・4展示室)<br>6月26日(火)～9月17日(月・祝) 『山崎山治氏収集資料展』(第1展示室)<br>7月24日(火)～10月28日(日) 『発掘通報展2012』(第2・4展示室)  |         |
| 講 義<br>イ ベ ン ト  | パ ネ ル 展 示：5月8日(火)～7月16日(月・祝) 『朝鮮半島の文化遺産 百濟の山城-1』(文化情報広場)  |         |
|   | 古 代 体 験：春・夏・土・日・祝日に第4展示室で九尾ボクシアによる古代体験展覧中(有料、無料体験あり。予約不要。)  |         |
| 講 義<br>イ ベ ン ト  | 館 長 講 義：全12回の連続講演『古代の朝鮮半島』(第4土曜日)(4月と2月の第4土曜日以外実施)(受付は終了しました)   |         |
|   | 九 尾 講 義：全12回 第2土曜日(第1回～第4回は3月より申込開始。定員になり次第締切)<br>九 尾 ゼ ミ：4～6月『史料が語る大宰府の歴史』7～9月『考古学専攻科』次方から探る土器・瓦・陶磁器(定員30名申込)<br>夜 の ゼ ミ：7月1日(土)～7月19日(水) 9月19日(水) 10月19日(水) 11月19日(水) 12月19日(水) 20時～20時00分<br>イ ベ ン ト：7月7日(土) レインボウコンサート in おおきと八幡中央高校普通部パフォーマンス<br>9月16日(日) こども考古学体験講座 |         |
| 発 掘 調 査   | 大宰府史跡調査(蔵司地区) 県内遺跡発掘調査 4月～9月  |         |
| 求 資 料<br>提 館  | 常 設 展 示：「家書展覧会 戦後の世界」   |         |
|   | 企 画 展 示：4月17日(火)～5月27日(日) 2012 春の企画展『陶土と炭と根性と一木田雄雄三代一』<br>5月13日(日) 作家本人によるギャラリートーク<br>4月17日(火)～5月27日(日) 『ふるさと写真コンクール 入賞・入選作品展』  |         |
| 甘 木 歴 史 館   | 常 設 展 示：『朝倉の歴史と民俗資料』  |         |
|   | 新 常 設 展 示：『あさくら 朝倉 板倉三役の作品展』平成24年3月20日(火)～4月8日(日)<br>期間中イベント『さくらコンサート』平成24年3月31日(土) 13:00～ 入場無料<br>資料館を囲むように咲く桜を愛ながら、フルート・ボーカル・ピアノのコンサートをお楽しみ下さい。   |         |
| 柳 古 文 書 館   | 学 習 講 義：『期間限定平成24年4月～平成25年2月』毎月1～2回、全15回のシラズ講座。<br>(期間を過ぎての参加となります。要申込。定員あり。申し込み、お問合せ下さい。)  |         |
|   | 出 前 講 義：考古資料・民俗資料の出展展示、現地指導(申込開始)<br>館長出前講座：『朝倉の方言とことばばなし』(詳しくはこちら)   |         |
| 常 設 展 示：4月8日まで『保存のかたち～史料を守り、伝える～』<br>併設『柳川ひなまつり・さげもんめぐり 松井家・立石家のおひなさま』<br>4月10日(火)～ 『保存のかたち～史料を守り、伝える～』<br>古文書解読講座：毎月第4日曜日 朝倉・応用学2コース(受付は終了しました)<br>古文書入門講座：6月～7月に募集予定、8月～9月に実施予定(詳細要録) 古文書を集めて学ぶ初心者のための講座です。 |   |         |

※九州歴史資料館の行事についてはホームページにて随時最新情報を提供しています。  
※各館の行事の詳細については、直接お問い合わせください。

## 福岡県の指定文化財

## 平塚川添遺跡 [国指定史跡]：朝倉市平塚

平塚川添遺跡は、筑後平野に営まれた弥生時代の大規模な環濠集落です。遺跡からは住居群の周囲を多量に巡った環濠が見つかり、弥生の「ムラ」の姿が明らかにされました。調査後、平塚川添遺跡は史跡として保存された上で当時の建物や環濠も復元され、現在は歴史公園として整備されています。アクセスは、甘木ICから車で5分、または西鉄甘木線上浦駅から徒歩約20分です。

平塚川添遺跡公園：(住所)朝倉市平塚 444-4 (電話)0946-21-7966

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106  
福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9576  
FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/> 休 日 月 日

開館時間 午前9時30分～午後4時30分  
観 覧 料 一般200(150)円 高校生150(100)円  
小学生以下 無料  
障がい者(同伴介護者1名)無料  
※土曜日(高校生以上無料)  
※( )内は団体料金(20名以上)  
月 曜 日(定休) 日 曜 日(臨時休館) 年 末 年 始(12月29日～1月4日)

●公共交通機関  
(西鉄電車) 天神大牟田線三沢五駅から徒歩10分  
(JR) 筑後線平塚駅南口から徒歩約5分

●自転車  
(九州自動車道) 筑紫野ICから鳥居渡集落野瀬橋経由約15分  
(大分自動車道) 筑紫小野ICから鳥居渡集落野瀬橋経由15分  
(福岡都市高速) 水城出口から国道3号線経由約25分



## 九歴だより

No.35  
2012.4

## 発掘速報

## 特別史跡大宰府跡蔵司地区

九州歴史資料館では、平成21年度より特別史跡大宰府跡にある蔵司地区の調査を実施しています。

## ○大宰府の役所「蔵司」

蔵司地区は、小字名に「蔵司」の字名が残る場所です。蔵司とは文字どおり「蔵を司る」の意味で、「倉庫を管理する役所」となります。大宰府は西海道を中心組織のため、九州各地の調備物(税として納めた品)は大宰府に集められ、「蔵司」の管理下になりました。実際に昭和45年に行われた発掘調査では、「久須評」(現在の大分県玖珠郡)と書かれた付札木簡が蔵司地区の西側の谷で出土しました。

## ○最大級の礎石建物

蔵司地区の丘陵上には、大型の礎石建物の基礎部分が残されています。柱を据えた「礎石」は、現在23個が確認されていますが、本来は総数40個ほどで構成されていたと考えられています。これらの礎石に囲まれた部分の床面積は480㎡となり、大宰府政府の中心建物である正殿の床面積378㎡よりも大きく、九州でも最大級の礎石建物と評価されています。



蔵司地区の礎石建物

## ○大量の兵器

現在進められている発掘調査では、大量の鉄製品が出土しています。鉄製品の大半は、古代の武器や武具です。出土した武器は、鉄鏃(鉄の矢じり)・鉄刀・弓(弓の飾り金具)の3種類です。武具は「小札」と呼ばれる甲冑の部材が数多く出土しています。これらの鉄製品の出土量は、現段階での集計でも約25kgに達し、鉄鏃1,700～2,600本分に相当します。



蔵司地区で出土した鉄製品

このように大宰府政府の隣にある蔵司地区の調査では、①大宰府成立期の付札木簡、②九州最大級の礎石建物、③大量の武器・武具という3つの重要なキーワードが見出されています。今後の調査では、これら3つのキーワードがどのような関係をもって、蔵司地区の「大宰府官衙」を構成していたのかが注目されます。

# きゅうおにとめぐる 九歴名品探訪

Vol.1



きゅうおに

僕と一緒に九州  
歴史資料館の展  
示室の資料を見  
てみよう！

## 狩人の石槍

(筑紫野市赤原遺跡の角趾状石器)



約2万年前の狩猟具とみられる石器です。サヌカイトと呼ばれる石の材料を丁寧に細かく加工しながら先端部を尖らせて、槍先の形に仕上げられています。狩人たちは、この石器を柄の先に装着して石槍とし、'ナウマンゾウやオオツノジカ'などの獲物を追い求めたのでした。厳しい氷河期を生きたため、'石の匠'でもあった狩人たちの研ぎ込まれた技術の高さがうかがえます。

## 銅と鉄の祭具

(糸田町古賀ノ宮遺跡の銅戈・筑紫野市蓮場山遺跡の鉄戈)

戈は古代中国で生まれた武器で、長い柄を刃に垂直するようにして取り付け、マサカリのように振り回して使います。日本列島では約2,000年前の弥生時代に朝鮮半島から伝わり、石・青銅・鉄のものが見つかっています。石製や青銅製のものは列島内で作られましたが、鉄製のものは、朝鮮半島からもたらされました。当時の有力者が鐘鐃に埋葬された時に一緒に収められた状態でよく見つかります。弥生時代の人々は武器としてではなく、マツリ(祭り)の道具として使っていました。



鉄戈

銅戈

## 古墳の守り人

(筑前町仙道古墳の盾持人物埴輪)

発見



盾を持つ武人を表現した形象埴輪で、高さは約1mです。頭には線刻で帽子状の表現があり、冠の可能性もあります。目と口はくり抜かれますが、鼻や眉、耳は粘土を貼り付け立体的に作っています。盾は、体の左右にヒシ状の板を付け足し、正面側だけに模様を線刻しています。この埴輪は古墳の石室前面で発見されたため、埋葬された人を守護する意味があると考えられます。

古墳の入口に倒れていたんだ。



## 和同開珎

(筑紫野市緒ヶ浦火葬壙)



大宰府の役人のもので、さされる骨壺の中から発見されました。和同開珎は、和銅元年(708)に発行され、奈良の都を中心に流通しました。地方でもみつかるとは、土地の神を鎮めるおまつりや人が生まれたり亡くなったときに用いられました。この和同開珎もあつた世での平安を祈って納められたものでしょう。古代の人々は、銅銭に不思議な力が宿っていると信じていました。

九歴では、土・日・祝日、和同開珎の鋳造体験ができるよ(有料)。



## 知られざる平安仏

へいあかぶつ

(久山町の如來形坐像(個人蔵))



この金色に輝く仏像は、最近新しく発見されました。一見すると、最近造られたもののように感じられますが、頭部が大きくがっしりとした体つきは、古そうにも見えます。そこで、X線CTスキャナで、修理で塗られた金色の下にある、彫刻本体の様子を見てみることにしました。すると浮かび上がってきたのは、厳しい顔立ちに鋭い彫りをもった、平安時代前期の仏像の姿でした。小さな仏像ですが、大きな意義をもった古像だったのです。

## 近代史を語る手紙

(野田大塊文書)

野田大塊文書は、現在のみやま市出身の政治家、野田卯太郎(大塊)の史料です。野田は自由民権運動や実業界で活動した後、衆議院議員に当選し、逓信大臣(現在の総務大臣)や商工大臣(現在の経済産業大臣)も務めました。こうした活動を反映して野田文書には、野田の日記や書類のほか、原歌や高橋是清など首相や著名人の手紙も数多く残されています。写真は福岡県出身の筆人、明治元二郎からの手紙で、5月から3点の手紙を入れ替えて展示する予定です。



## 文化財サイエンス・ラボ

### Study 1 X線CTスキャナによる華麗なる象嵌文様の発見

「ここ「文化財サイエンス・ラボ」は、文化財を科学している研究室です。今後、科学が教えてくれる文化財の新たな魅力を発信します。さて、当館では、平成22年にX線CTスキャナを導入しました。これは、病院の検査でもおなじみですが、これまでの技術では難しかった文化財の断面画像や立体画像を、高速で撮ることができ、まだ知ることのない秘められた文化財の魅力の発見につながるものと期待されます。

今回、紹介する大刀の鞘鐙(飯塚市教育委員会蔵)は、遠賀川流域で発見された装飾古墳である飯塚市の山玉山古墳から出土したもので、X線CTスキャナによる科学調査を行いました。その結果、現状ではサビに覆われていますが(写真左)、その下に隠されていた象嵌技法による華麗なる文様を浮かび上がらせることができました。三次元画像で見ると、心葉文や花文で組み合わせられた文様が針金のような金属線で作られており、それが360度全体にわたって装飾されていることがわかりました(写真右)。また、X線を利用して金属線の材質を調べたところ、純度の高い銀であることがわかりました。このような銀の象嵌文様がある大刀を持つことができるのは、当時の有力者のみでしょうから、山玉山古墳の被葬者は、地域を支配する有力者であることが、この科学の力による新発見からも容易にうかがえます。



左が現在の鞘鐙の写真、右がX線CTスキャナで撮影した三次元画像なんだ。見くらべてね。

